

わかやま

No.16

和歌山県精神保健福祉センターだより

2003年7月

「近頃の若者は・・・」

和歌山県立医科大学看護短期大学部教授 志波 充

若さというものが、致命的に苦痛なものを持っているとしても、最近外来を訪れる若者たちをみていると、誰かに何かを言いたいと言葉にならない。複合的、重層的に積み重なったスベテ。河童のように子供は親も家庭も選べない。はたしてこれは誰の責任か？

外来で出会う若者は、手首自傷であったり、摂食の問題を持っていたり、多量服薬を繰り返したりする。以前からも青年期の病理はあり、それが時代とともに形を変えてきただけで、もとにあるものは変わらないともいえるが、そのような人としての実存的な部分と、個人の病理よりは、家族の病理、あるいは社会の病理を反映した病態に行き当たることも多い。子供は時代の申し子である。

今の中学生をみているといじらしくなってくる。退屈な授業をじっと辛抱して座っている。心が荒涼としている。ファッションと化粧と携帯電話にしか興味が無い。可哀想になってくる。(山田洋次監督)

子供が助けてほしいと思った時、保護者が保護的な役割をはたしていない。対象の持つべき保護機能が代償不全を起こし、その背後で子どもは激しい怒りを隠している。(牛島定信)

ヒトミへ もう何もかも嫌になっちゃった・・・中略・・・あたしはどこで間違ってしまったんだろう。どこで狂っちゃたんだろう。いくら考えてもわからない。さっき、自分の小さい時のことをずっと思い出した。・・・中略・・・今でもよく覚えている。五、六歳の頃、夜ひどく怖い夢を見て、大声で泣きながら母親に抱きつこうとしたことがある。その途端、彼女はさっと体を硬くしてあたしから離れた。子供心に、この人はきっとあたしを愛せないんだ。だから触りたくないんだと思って、すごく傷ついた。自分がとても汚くて、惨めで、捨てられた子供なんだという気持ちが、それ以来ずっと消えない。(桜井亜美：サーフ・スプラッシュ)

誰かがその人に対してなすべきことを怠っていたり、なすべき事をなしてもらっていないまま成長した人格：基底欠損 (バリント)

人類はもうそろそろこの地球から退場することを真剣に考えたほうがよい時期にきている。(鶴見俊輔：哲学者)

いったん不完全なまま出来上がってしまったヒトの心を治すのはむずかしいだろう。必須アミノ酸のように、ヒトの心の栄養としてなくてはならないものの質と量はどれほどのものだろうか。精神医学はその答えを用意できるであろうか。赤ん坊が生まれたときから両親の愛情の注ぎ方や、子供に最低してはいけないことぐらいのマニュアルは精神保健は、必要かもしれない。いまのレーダー人間といわれる情報収集にたけた人たち（おそらく私たちの世代も）には案外有効かもしれないから。

町や村からしっとりとしたものが無くなり、精神保健福祉が抱える分野はますます広くなるようです。子どもたちが精神的も健全に育成するために（治療、育児、教育、モラルティ）、ライフステージを通じたデザインを考えて頂ければ（共に考えていければ）と思う次第です。

もくじ

- P 1 近頃の若者は・・・
- P 2 精神保健福祉センター書籍・ビデオ一覧
- P 3 「めばえ」「櫻」の活動紹介
- P 4 和歌山県の子ども虐待に対する取り組みの経過から
WSPCAN（和歌山子どもの虐待防止協会）
- P 5 メンタルヘルスニュース／朝井所長のひとりごと／お知らせ
- P 6 は一とふるネットワーク「高野口保健所 中野善郎さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

精神保健福祉センター書籍・ビデオ一覧（貸し出し出来ます）

市町村時代の精神保健福祉業務必携	全国精神保健福祉相談委員会	中央法規
精神障害者生活支援の体系と方法	全国精神障害者社会復帰施設協会	中央法規
精神障害者サバイバー物語	月崎時央	中央法規
精神保健福祉学序説	柳澤孝主	中央法規
精神病を耕す	星野弘	星和書店
ヘルパーのためのやさしい心理学と精神医学	町田いづみ	星和書店
在院日数短縮化をめざして	保坂隆	星和書店
ひきこもる思春期	斉藤環	星和書店
こころをとらえるナーシング	保坂隆	星和書店
絵とき精神医学の歴史	ジュール・マッセ他	星和書店
ほんとうに困った症例集(神経内科編)	作田学	星和書店
薬物依存	宮里勝政	岩波新書
精神医学事典	加藤正明他	弘文堂
ひきこもり救出マニュアル	斉藤環	PHP研究所
社会的ひきこもり～終わらない思春期～	斉藤環	PHP新書
べてるの家の非援助論	浦河べてるの家	医学書院
事例から学ぶSST実践のポイント	東京SST経験交流会	金剛出版
患者から学ぶ	精神療法編集部	金剛出版
緊急事態ストレス・PTSD対応マニュアル	JTミッチェル他	金剛出版
ICF国際生活機能分類～国際障害者分類改訂版	障害者福祉研究会	中央法規
心的トラウマの理解とケア	厚生労働省	じほう
犯罪被害者の心の傷	小西聖子	白水社
トラウマ	デビッド・マス	講談社
海馬	池谷祐二	朝日出版社
精神科看護技術の展開	川野雅資	中央法規
精神疾患・痴呆症をもつ人への看護	小林美子	中央法規
高齢者の「こころ」事典	日本老年行動科学会	中央法規
精神保健福祉士養成講座		
精神医学	大月三郎他	中央法規
精神保健学	青山英康他	中央法規
精神科リハビリテーション学	岡上和夫他	中央法規
精神保健福祉学	池末美穂子他	中央法規
精神保健福祉援助技術総論	田中英樹他	中央法規
精神保健福祉援助技術各論	岩田泰夫他	中央法規
臨床精神医学講座Special Issue		
精神医学の歴史／記憶の臨床／精神障害の予防／	松下正明他	中山書店
摂食障害・性障害／精神医学におけるチームアプローチ／		
外傷後ストレス障害／アルツハイマー病／		
精神医学におけるチームアプローチ倫理とインフォームドコンセント／		
総合診療における精神医学／病跡学／		
精神科臨床における画像診断／精神疾患と遺伝／	編集：松山正明	
アディクション	アスク・ヒューマン・ケア	アスク・ヒューマン・ケア
臨床精神医学講座別巻精神科データブック	編集：松山正明	中山書店
臨床精神医学講座別巻総索引・総目次	編集：松山正明	中山書店
心理教育による精神障害者の家族支援第1巻(ビデオ)	監修：後藤雅博	ジェムコ
心理教育による精神障害者の家族支援第2巻(ビデオ)	監修：後藤雅博	ジェムコ
連携とは：実践で見えてきたもの(ビデオ)	中島映像製作所	中島映像製作所
高齢者の心のケア理論編(ビデオ)	監修：谷口幸一	ジェムコ
高齢者の心のケア実際編(ビデオ)	監修：谷口幸一	ジェムコ

このコーナーでは県下の社会復帰施設を紹介します。
第5回は、和歌山市にある「めばえ」と「櫻」です。
「櫻」の施設長、森さんからお話を伺いました。

「めばえ」「櫻」の 活動紹介

仕事を通して、社会の中で働く一人の“ひと”として充実した人生をつくりあげる支援を行ったり、精神障害を持つ方が地域生活をより豊におくることを支援したり。

利用される方々と地域の方との“ふれあいの場”として、また様々な不安や悩みを軽減して安心して自分の生活をつくり出すことが出来るように、「めばえ」と「櫻」は、“明日へのステップアップをめざして”あなたと共に歩んでいきます。

【「めばえ」・「櫻」開所まで】

昭和30年12月、65床の精神病院宮本病院が開院されました。後、多いときで545床までの病院となり入院治療中心の医療がなされておりましたが、地域医療、社会参加への促進と転換を図り現在では、395床のベット数の病院です。

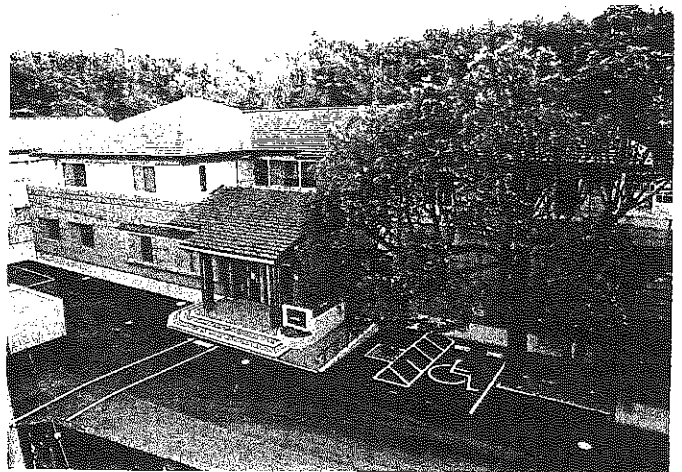
その間グループホーム2ヶ所と共同住居を開設してまいりました。しかしなんとといっても数に限りがあり、しかも住居の問題だけでは社会での生活の質の向上に結びつくものではありません。帰るところのある方にしても退院をしても毎日何をすればいいのか、すぐ職場に復帰したくても受け入れてはくれない、以前のように人と接することができない等々、様々な問題を抱えておられます。なかでも行き場がなく困っている、そういう場所はあるが一緒に行く仲間がいない、困ったことが生じてもどこに相談していいかわからないというのが現状です。

そういった当事者のニーズに応えていくためにも通所授産施設と地域生活支援センターは必要不可欠だと思います。

さて医療法人宮本病院社会復帰部、通所授産施設「めばえ」・地域生活支援センター「櫻」は平成15年4月1日に開所いたしました。このような社会復帰施設の実施主体が医療法人というのは、県内では初めてということです。しかし当然のことではありますが、いずれの施設においても、地域性を一番に考え運営しています。1階は通所授産施設で2階が地域生活支援センターです。

【「めばえ」の活動状況】

通所授産施設「めばえ」の授産種目は、製パン・クリーニング・喫茶の3種目です。製パンでは、パン職人さながらのユニフォームを着てパンを毎日焼いております。「パンは焼くものだとはもちろん知ってはいたけど、実際自分が焼いてそれを誰かが食べてくれているのだと思ったらなんか感動しますよね」と目を輝かせメンバー同士話し合っています。クリーニングではメンバーがすでに洗濯機や乾燥機の操作も覚え冗談を言い合いながら働いています。喫茶は地域の仲間のもとより、地域住民の方々も利用して下さっています。現在、正式登録者は10名ですが、実習されておられるメンバーが30名ほどおられます。



【「櫻」の活動状況】

地域生活支援センター「櫻」は平日午前10時から午後8時まで開所しており毎日食事サービスを行っています。昼食10名、夕食は5名程度（メニューによってはこの倍近く）ですがスタッフが毎日交代で作っています。昼食数が多いのは「めばえ」のメンバーで、日中はあまりメンバーの方はいません。午後4時を過ぎる頃より作業所やデイケアに通っておられる方々がちらほらやってこられます。そのころから「櫻」が目覚める時間でカラオケ、バトミントン、ゲーム等々が始まります。また作業所等で疲れたのか辛そうな表情でこられるメンバーもいますが、自然と仲間の空気の和に助け込んでくつろいでいます。

5月30日に第1回地域交流事業としてバーベキュー大会を行いました。近隣の作業所のメンバー、保健所のDCのメンバー、地区の自治会の方が多数参加されました。また、8月にはキャンプも企画しており盛りだくさんのメニューを考えています。とにかくまずはいろいろ企画して見て当事者のニーズを掘り起こしながら地域に密着し、「ここへ着たら落ち着く」というようなセンターを目指します。

【今後の抱負】

最後にこれからの社会復帰施設のあり方として地域の障害者、健常者それぞれがともに支えあい理解しあっているような場所でありたいと強く思います。

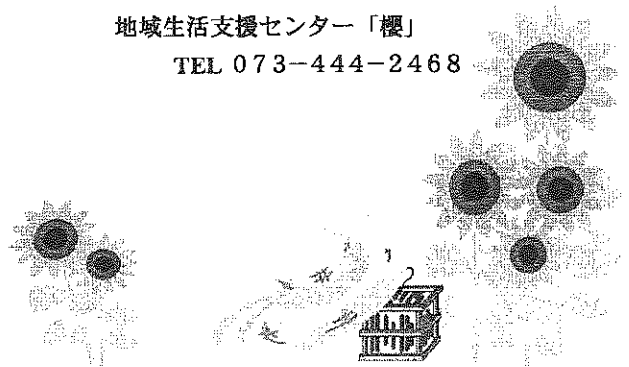
連絡先 〒641-0054 和歌山市塩屋3-6-2

精神障害者通所授産施設「めばえ」

TEL 073-444-2020

地域生活支援センター「櫻」

TEL 073-444-2468



このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

WSPCAN (和歌山市子どもの虐待防止協会) だより

和歌山子どもの虐待防止協会

和歌山県の子どもの虐待に対する取り組みの経過から

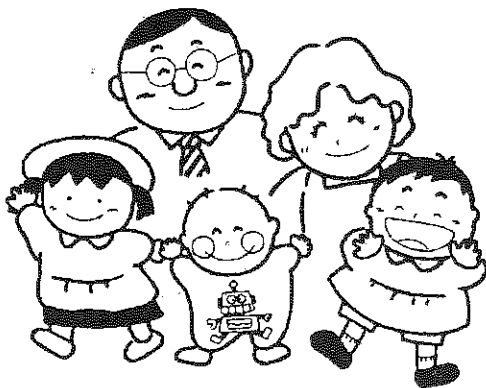
和歌山県での子どもの虐待に対する取り組みについて、和歌山県立医科大学小児科・和歌山子どもの虐待防止協会事務局の柳川敏彦先生にお話をうかがいました。

和歌山県での子どもの虐待に対する取り組みは、1994年1月に和歌山被虐待児症候群対策委員会の設置に始まります。虐待された子どもに対してどのような対応をして良いのか分からないという現場の思いから、全国でも比較的早い時期に設置された委員会です。

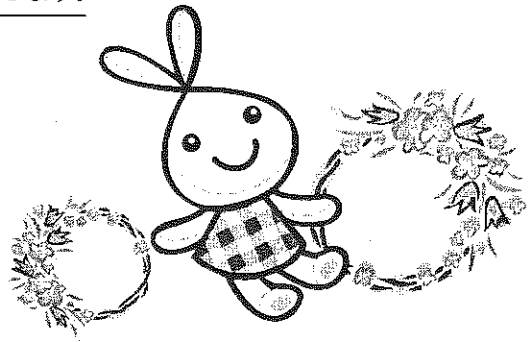
構成メンバーは医療、行政、福祉、教育など公的機関を中心に、医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、弁護士、児童福祉士、養護施設職員、教育委員会の先生などで他職種です。被虐待児の実態調査、連絡網の樹立、虐待予防対策の立案、そしてケース会議の開催などを行い、大きな成果をあげました。

1998年9月には、この和歌山県被虐待児症候群対策委員会のメンバーが中心となり、日本子どもの虐待防止研究会の第4回全国集会を開催しました。大阪、横浜という大都市に次いで開催でした。

この時、研究会ロゴとして作成したイラストは、家族が笑顔で楽しく暮らすという目標をイメージしたもので、いまでも「和歌山子どもの虐待防止協会」のイメージイラストとして使用しています。



対策委員会と研究会開催という2つの大きな虐待防止に対する取り組みを通じて、虐待はけっして特殊な問題ではなく、母親や養育者の育児に関する悩み、不安などから生じる可能性があり、誰にでも身近におこる問題であること、そして残念ながら虐待に至ったケースでは、まわりに一緒に考えたり、話をする相手がいないなど、養育者が孤立状況におかれていることなどを経験してきました。



2000年3月18日、「子育ては社会です」という観念に立ち、子どもに関係する専門家だけでなく、一般市民、地域の方々の参加によって子どもの虐待に対応するという趣旨で、「和歌山子どもの虐待防止協会」の設立(会長 小池通夫)へとつながりました。

県下において虐待防止キャンペーンとして、地方紙への虐待防止に関する啓発記事の連載、虐待防止啓発ポスター公募・作成、公開講演会開催、ホームページ作成(<http://www3.ocn.ne.jp/~wspcan/>)など啓発活動を中心に展開しました。このキャンペーンでの公募ポスターは、県下のすべての幼稚園、学校、保健所など多くの機関に配布し、いまでも引き続いて掲載して頂いている機関も多いと思います。



和歌山子どもの虐待防止協会は、民間の団体ですので、一般の方々の多数の参加やご支援をどんどんお願いしたいと考えています。その意味で、2003年度はNPO法人化にむけて準備をしており、さらに新しい道を作っていきたいと考えています。

連絡先 〒641-8509 和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学小児科学教室内

TEL 073(441)0633

FAX 073(444)9055

和歌山メンタルヘルスニュース

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

(1) 5月11日、社会的ひきこもり青少年の居場所「ハートツリーハウス」(田辺市末広町8-23)の開所式が行われました。外に一步踏み出したいがなかなか踏み切れない、そんな時に気軽に出てこれる場所として期待されています。オープンは月・火・木・金曜日13:00~17:00です。水曜日は田辺市民総合センター男女共同参画ルームで同じ時間帯に行っています。

(2) 5月14日、下津町精神障害者家族会『虹の会』が発足しました。平成14年より下津町在住の家族が下津町保健福祉センターで勉強会を始め、地域に密着した活動へ発展することを願って、念願であった『虹の会』を発足させました。

例会は月1回、代表『虹の会』会長中野仙吾

(3) 5月17日、関西国際大学の清水将之先生の講演とシンポジウムが、和歌山大学生涯学習教育研究センターにおいて、引きこもり青年の共同作業所「エルシティオ」主催で開催されました。シンポジウムでは家族や当事者、関係機関の人110名が熱心に聴講し意見交換しました。

(4) 5月25日、平成15年度和歌山県精神障害者団体連合会(わせいれん)総会がふれあいセンターで開催され、県下の自助グループの役員20数名が出席し、総括案、会計報告、活動方針案、予算案、規約改正、役員体制案等について話し合われました。その議案では、主に交流会、わせいれんミーティング、精神障害者の人権110番等のことが議論されました。

(5) 6月7日、平成15年度和歌山県精神障害者家族会連合会総会が田辺市市民総合福祉センターで開催され、家族や関係者80名の出席がありました。『難病とともに・すばらしい社会の一員』というテーマで和歌山県難病団体連絡協議会会長、森田良恒氏の講演があり、「障害者や難病を持つ現場から生まれる豊かな心を持つ人間を育てているという自負を持とう」と訴え、参加した家族を力づけました。また、平成15年度はNPO法人に向けて取り組むことが了承されました。

(6) 6月14日、登校拒否の子どもを持つ和歌山県親の会総会が開催され、県教育長学校教育局から「今後の不登校の対応のあり方」について話がありました。また、家族からは体験談の発表がありました。意見交換では家族から就学終了後の相談の窓口の設置や教員への教育等要望が出されました。

(7) 6月18日、平成15年度精神保健福祉等関連新任者研修が和歌山ビッグ愛で開催され、50人の参加がありました。制度についてや精神疾患と障害の理解について講義があった後、行政関係従事者対象と施設や医療機関従事者対象の2分科会に分かれました。分科会では、役割と連携を中心に具体的な取り組みの紹介や課題について2コマの講義があり、その後のグループワークでも活発な意見交換がなされました。



朝井所長のひとりごと

「あの弱い阪神タイガースはどこへ行ったんだろう？」
二勝一敗のペースを保っているタイガースの試合をビールを飲みながらTVで独りで楽しんでいます。

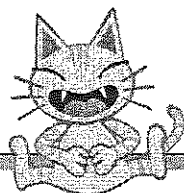
毎日楽しいんですが・・・よくよく考えると、はたして、オールスター戦の時は？100試合終わった時は？30近い貯金はあるのだろうか？

今年和歌山県出身の濱中選手の4番打者はうまく育てられなかったが・・・これは来年にまわしても良い。とにかく優勝さえしてくれたら・・・と思っています。

何年も最下位の阪神を、2年で優勝させてしまった星野監督は名監督として阪神球団の歴史に刻まれるが・・・

もし優勝を取り逃したら、迷監督にされてしまうだろう。

あれこれ心配と嬉しさが頭に浮かぶ野球観戦です。



・和歌山県精神保健福祉センターのメールアドレス
ホームページアドレスの変更について

(メールアドレス)

E-mail: e.0503011@pref.wakayama.lg.jp

(ホームページアドレス)

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg>

[/050300/050301/index.htm](http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm)

・4月の異動で、脇田美恵さんが岩出保健所健康推進課に替わられました。新しい着任地では結核等感染症を担当されるそうです。2年間ご苦労様でした。

・センターの特定相談(アルコール相談)を担当して下さっていた辻敬先生が5月末でお辞めになりました。先生には相談を始めアルコールの健康教育などセンターの業務に多大な貢献をして頂きました。長い間ご苦労様でした。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。

第一弾は、保健所の相談員さんシリーズです。

はーとふるネットワーク



今回は、岩出保健所の中野善郎さんです。

— 県の保健所に就職して何年になりますか？

平成11年4月に採用され、湯浅保健所で2年、現在、高野口保健所で3年目で合計5年目になります。

— それまではどんなお仕事をされておりましたか？

高校を卒業してから3年間社会勉強（と言うかフリーター？）をしてその後福祉の大学に4年間行ってから県に就職しました。

— この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？

患者さんや家族の方から「保健所に相談して良かった」と後でお礼を言われたりしたときですね。特に社会資源のない中で関係機関の方々と連携しながら、本人も納得のいくサービスを提供できたときにはとても充実感があります。

— 仕事で苦労する点はどのようなことですか？

患者さんからの相談や緊急対応に追われて仕事の予定が立ちにくいことです。去年も保健所の会議の講師をするはずだったのですが緊急対応のため外に出なければならず、保健所のスタッフや関係の方々に大変迷惑をかけてしまいました。

— 木村さんから伊都郡のナイスガイと紹介がありました。私達の間でも男前の中野さんで通っているのですが幼少の頃はどんなお子様だったのでしょうか？

子供の頃は体が弱く、ぜんそく持ちでした。そのため学校もよく休んでいました。そんなことがあり、自分は内気な性格だったと思います。

— 高校を出て、一人暮らしをする中でいろんな人と出会い、たくさん友達ができる中で自分が変わったと思います。

— 休日はどのようにして過ごされていますか？

子供が1歳になり、相手をしているのがとても楽しいです。後は大学の時からの趣味でバス釣りに行くことです。子供が男の子なので早く一緒に釣りに行きたいですね。

— 今後の抱負を教えてください。

保健所で相談員をするようになって5年目に入りました。精神保健分野はここ数年でめまぐるしい変化が起こっています。その変化に、いつもついていけるように努力していきたいと思っています。

— 中野さんから、次の相談員さんのご紹介をお願いします。

後輩思いで、人をにこやかにする天賦の才能を持っている和歌山市保健所の松岡さんを紹介したいと思います。

センターの研修のお知らせ

精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）講習会

講義 平成15年8月6日（水）
勤労福祉会館3階 会議室
施設研修 8/7（木）19（火）21（木）社会福祉法人一麦会
8/8（金）22（金）社会福祉法人やおき福祉会
募集定員 100人

○ 講義プログラム（第1日目）

- ・精神保健福祉施策と制度
精神保健福祉センター 主査 長島 隆
- ・精神障害の基礎知識
国保野上厚生総合病院 精神科医長 上野 半兵衛
- ・精神障害者ホームヘルプサービス-援助内容と援助特性-
麦の郷高齢者地域生活支援センター ケアネージャー 日野のぞみ
- ・家族の立場から
和歌山県精神障害者家族会連合会 会長 大畠 信雄

○ 施設研修（第2日目）

講義・施設学習及び当事者との交流会
市町村精神保健福祉担当職員等研修
平成15年9月17日（水）和歌山ビッグ愛204号室
テーマ これからの精神障害者の地域生活支援を考える
講師 国立精神・神経センター 精神保健研究所
精神保健計画部長 竹島 正
募集定員 市町村職員等100名 募集締め切り8/29（金）

精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）フォローアップ研修

平成15年10月8日（水）和歌山ビッグ愛204号室 募集締め切り10/30（木）
講師 花園大学 社会福祉学部 三田優子

県外の研修案内

日本デイケア学会	平成15年 9月18日～20日	石川県加賀市
日本精神障害者リハビリテーション学会	平成15年 9月25日～27日	長崎県諫早市
日本精神科救急学会	平成15年 10月2日～ 3日	千葉県千葉市

編集後記

着任して3ヶ月何してきたんだろう・・・思い出すのはドジったことばかりです。梅雨のうっとうしさが追い打ちをかけて沈みがちな気持ちを奮い立たせて7月号の編集に取りかかりました。その中で、家族会、エル シティオやハートツリーハウスなど、民間の方々の頑張りに元気をもらうことが出来ました。ところで、今回は10月号ですが、このセンターだよりに参加しませんか？どんどんご意見をお寄せ下さい。待ってま〜す。